

会員へのお知らせ

学会会員殿

卵巣癌・卵管癌・腹膜癌手術進行期分類の改訂 および

外陰癌，陰癌，子宮肉腫，子宮腺肉腫手術進行期分類の採用について

卵巣癌・卵管癌・腹膜癌の新FIGO進行期分類(FIGO2014)が2014年(平成26年)から発行になったことに伴い，日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会および本邦における卵巣腫瘍の登録のあり方検討小委員会にて検討を行い，卵巣癌・卵管癌・腹膜癌手術進行期分類(日産婦2014，FIGO2014)へ改訂いたしました。平成26年度第1回理事会(平成26年4月17日)において，この改訂が承認されましたので，会員の皆様にお知らせいたします。現在，卵巣腫瘍取扱い規約改訂小委員会により，卵巣腫瘍取扱い規約の改訂作業中であり，2015年度に発刊予定です。しかしながら，進行期分類の取り扱いは迅速に対応すべき事項であるため，新取扱い規約の出版を待たずに，本会告にて会員の皆様へお知らせいたします。

なお，卵巣癌および卵巣境界悪性腫瘍の腫瘍登録につきましては2015年1月1日の症例より新進行期分類に沿って，治療ならびに症例登録を行っていただくようお願いいたします。2015年治療症例は，新しい規約に基づいて2015年9月からの登録開始を予定しております。また，子宮頸癌，子宮体癌につきましても，登録項目の一部変更を予定しておりますので，卵巣腫瘍登録にあわせ，2015年治療症例の登録は2015年9月からを予定しております。

外陰癌，陰癌，子宮肉腫，子宮腺肉腫等についても，本邦における動向を検討すべく，腫瘍登録を開始する予定で準備をすすめております。そのため，外陰癌，陰癌，子宮肉腫，子宮腺肉腫のFIGO進行期分類を，改めて日本産科婦人科学会進行期分類として，採用することとし，平成26年度第1回理事会(平成26年4月17日)において，承認されました。これらの稀な腫瘍の登録につきましては，2016年1月からの治療症例の登録開始を目指しており，登録要綱等につきましては，後日またお知らせする予定です。

なお，各癌のFIGO進行期分類，日産婦進行期分類を以下に呈示いたします。

平成26年11月

公益社団法人 日本産科婦人科学会
理事長 小西郁生
婦人科腫瘍委員会
委員長 青木大輔

卵巣癌, 卵管癌, 腹膜癌

手術進行期(日産婦 2014, FIGO2014)

I 期: 卵巣あるいは卵管内限局発育

- I A 期: 腫瘍が一侧の卵巣(被膜破綻がない)あるいは卵管に限局し, 被膜表面への浸潤が認められないもの. 腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞の認められないもの
- I B 期: 腫瘍が両側の卵巣(被膜破綻がない)あるいは卵管に限局し, 被膜表面への浸潤が認められないもの. 腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞の認められないもの
- I C 期: 腫瘍が一侧または両側の卵巣あるいは卵管に限局するが, 以下のいずれかが認められるもの
 - I C1: 手術操作による被膜破綻
 - I C2: 自然被膜破綻あるいは被膜表面への浸潤
 - I C3: 腹水または腹腔洗浄細胞診に悪性細胞が認められるもの

II 期: 腫瘍が一侧または両側の卵巣あるいは卵管に存在し, さらに骨盤内(小骨盤腔)への進展を認めるもの, あるいは原発性腹膜癌

- II A 期: 進展ならびに/あるいは転移が子宮ならびに/あるいは卵管ならびに/あるいは卵巣に及ぶもの
- II B 期: 他の骨盤部腹腔内臓器に進展するもの

III 期: 腫瘍が一侧または両側の卵巣あるいは卵管に存在し, あるいは原発性腹膜癌で, 細胞学的あるいは組織学的に確認された骨盤外の腹膜播種ならびに/あるいは後腹膜リンパ節転移を認めるもの

- III A1 期: 後腹膜リンパ節転移陽性のみを認めるもの(細胞学的あるいは組織学的に確認)
 - III A1(i): 転移巣最大径 10mm 以下
 - III A1(ii): 転移巣最大径 10mm をこえる
- III A2 期: 後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず, 骨盤外に顕微鏡的播種を認めるもの
- III B 期: 後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず, 最大径 2cm 以下の腹腔内播種を認めるもの
- III C 期: 後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず, 最大径 2cm をこえる腹腔内播種を認めるもの(実質転移を伴わない肝および脾の被膜への進展を含む)

IV 期: 腹膜播種を除く遠隔転移

- IV A 期: 胸水中に悪性細胞を認める
- IV B 期: 実質転移ならびに腹腔外臓器(鼠径リンパ節ならびに腹腔外リンパ節を含む)に転移を認めるもの

外陰癌

手術進行期(日産婦 2014, FIGO2008)

I 期：外陰に限局した腫瘍

- I A 期：外陰または会陰に限局した最大径 2cm 以下の腫瘍で、間質浸潤の深さが 1mm 以下のもの*。
リンパ節転移はない
- I B 期：外陰または会陰に限局した腫瘍で、最大径 2cm をこえるかまたは間質浸潤の深さが 1mm
をこえるもの*。外陰、会陰部に限局しておりリンパ節転移はない

II 期：隣接した会陰部組織(尿道下部 1/3, 膣下部 1/3, 肛門)への浸潤のあるもの。リンパ節転移は
ない。腫瘍の大きさは問わない

III 期：隣接した会陰部組織への浸潤はないか、あっても尿道下部 1/3, 膣下部 1/3, 肛門までにとど
まるもので、鼠径リンパ節(浅鼠径, 深鼠径)に転移のあるもの。腫瘍の大きさは問わない

III A 期：

- (i) 5mm 以上のサイズのリンパ節転移が 1 個あるもの、または
(ii) 5mm 未満のサイズのリンパ節転移が 1~2 個あるもの

III B 期：

- (i) 5mm 以上のサイズのリンパ節転移が 2 個以上あるもの、または
(ii) 5mm 未満のサイズのリンパ節転移が 3 個以上あるもの

III C 期：被膜外浸潤を有するリンパ節転移

IV 期：腫瘍が会陰部組織(尿道上部 2/3, 膣上部 2/3)まで浸潤するか、遠隔転移のあるもの

IV A 期：腫瘍が次のいずれかに浸潤するもの

- (i) 上部尿道および/または膣粘膜, 膀胱粘膜, 直腸粘膜, 骨盤骨固着浸潤のあるもの
(ii) 固着あるいは潰瘍を伴う鼠径リンパ節

IV B 期：遠隔臓器に転移のあるもの(骨盤リンパ節を含む)

*浸潤の深さは隣接した最も表層に近い真皮乳頭の上皮間質接合部から浸潤先端までの距離とする

腔癌

臨床進行期(日産婦 2014)

- I 期：癌が腔壁に限局するもの
- II 期：癌が傍腔結合織まで浸潤するが、骨盤壁には達していないもの
- III 期：癌が骨盤壁にまで達するもの
- IV 期：癌が小骨盤腔をこえて広がるか、膀胱、直腸粘膜を侵すもの
 - IV A 期：膀胱および/または直腸粘膜への浸潤があるもの および/または小骨盤腔をこえて直接進展のあるもの
但し、胞状浮腫の所見のみでIV期と診断してはならない
 - IV B 期：遠隔転移を認めるもの

子宮平滑筋肉腫/子宮内膜間質肉腫

手術進行期(日産婦 2014, FIGO2008)

I 期：腫瘍が子宮に限局するもの

I A 期：腫瘍サイズが5cm 以下のもの

I B 期：腫瘍サイズが5cm をこえるもの

II 期：腫瘍が骨盤腔に及ぶもの

II A 期：付属器浸潤のあるもの

II B 期：その他の骨盤内組織へ浸潤するもの

III 期：腫瘍が骨盤外に進展するもの

III A 期：1 部位のもの

III B 期：2 部位以上のもの

III C 期：骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの

IV 期

IV A 期：膀胱粘膜ならびに/あるいは直腸粘膜に浸潤のあるもの

IV B 期：遠隔転移のあるもの

注1 腫瘍が骨盤外の腹腔内組織に浸潤するものをIII期とし、単に骨盤内から腹腔内に突出しているものは除く

注2 多臓器の進展は組織学的検索が望ましい

子宮腺肉腫

手術進行期(日産婦 2014, FIGO2008)

I 期：腫瘍が子宮に限局するもの

I A 期：子宮体部内膜，頸部内膜に限局するもの(筋層浸潤なし)

I B 期：筋層浸潤が1/2 以内のもの

I C 期：筋層浸潤が1/2 をこえるもの

II 期：腫瘍が骨盤腔に及ぶもの

II A 期：付属器浸潤のあるもの

II B 期：その他の骨盤内組織へ浸潤するもの

III 期：腫瘍が骨盤外に進展するもの

III A 期：1 部位のもの

III B 期：2 部位以上のもの

III C 期：骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの

IV 期

IV A 期：膀胱粘膜ならびに/あるいは直腸粘膜に浸潤のあるもの

IV B 期：遠隔転移のあるもの

注1 腫瘍が骨盤外の腹腔内組織に浸潤するものをIII期とし，単に骨盤内から腹腔内に突出しているものは除く

注2 多臓器の進展は組織学的検索が望ましい

付記：

外陰癌，子宮平滑筋肉腫/子宮内膜間質肉腫，子宮腺肉腫のFIGO 進行期分類はすでに日産婦誌 2012；64(6)：1471—7に掲載されていますが，今回改めて日本産科婦人科学会として採用することにしたので，進行期の全文を掲載することにしました。

なお，外陰癌については一部修正がありますことにご留意ください。